

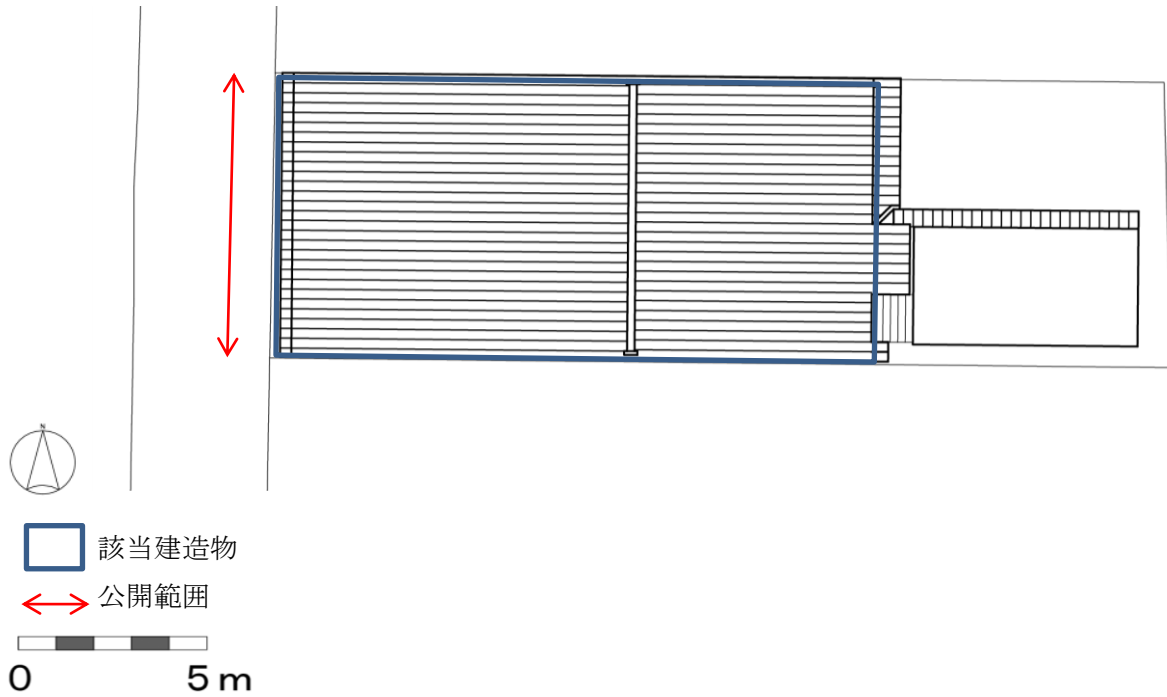
歴史的風致形成建造物 指定台帳

指定番号	7	名称	町家宿となり (Guest House “TONARI” on Naramachi)	
指定年月日	H30.6.25	所在地 (指定地)	奈良市中新屋町 35 番地 1	
指定建造物	主屋	建築年代・概要	江戸時代	木造つし二階建、切妻造、平入、棧瓦葺
位置 ・ 歴史	<p>町家宿となりは、奈良町中心部、中新屋町の南北道路に西面する町家である。建築年代は江戸時代に遡るとみられ、昭和初期頃に改造され、さらに正面外観は昭和後半に改造されていたが、平成 29 年、現所有者が購入後に昭和後半の改造部分を撤去・整備する修理が行われた。当初の用途は不明であるが、旅館だったとも伝わり、昭和初期には電気店となっていた。その後は住宅として使用され、今後、住宅兼ゲストハウスとして使用される予定である。</p>			
建物特徴 ・ 改修履歴	<p>主屋は、間口 3 間半のつし 2 階建ての町家で、表構えは昭和初期、昭和後半に改修されていたが、建ちが低く、1 階居室の天井がオクノマまで根太天井であったこと、ナカノマの差鴨居に突き止め溝があったこと、2 階の奥の居室の建ちが低いこと、床板に和釘が使用されていることなどから、建築年代は古く、江戸時代までさかのぼると考えられる。しかし、当初の表構えの詳細は不明であり、平成 29 年度の修理の際には、昭和後半のモルタル・ガラスブロック・サッシ等を撤去し、つしについては昭和初期のガラス窓を現すなど、復旧整備された。建築年代の古さを伝える建ちの低い外観や、つしの間口いっぱいに入れられた近代的なガラス窓などが、建物がたどってきた歴史をよく伝えている。</p> <p>(改修等)</p> <p>昭和初期：外観及びミセ部分を改造、つしにガラス窓を設置 昭和後半：外観を改造し、外壁にモルタルやガラスブロック等を使用 平成 29 年：昭和後半のモルタルやガラスブロック等を撤去し、つし 2 階の窓ガラスを復旧</p>			
活用	住宅兼ゲストハウスとして使用			
価値	<p>奈良の町家における人々の営みが、歴史と伝統を継承しつつ、時代に応じた変化を受け入れ、現代まで続いてきたことを示す建物であり、奈良町の町家の暮らしにみる歴史的風致の維持・向上にも寄与するものといえる。</p>			



歴史的風致形成建造物 指定台帳

配置図



付近見取図

